

2-5. 座間市

No.	5	座間市
-----	---	-----

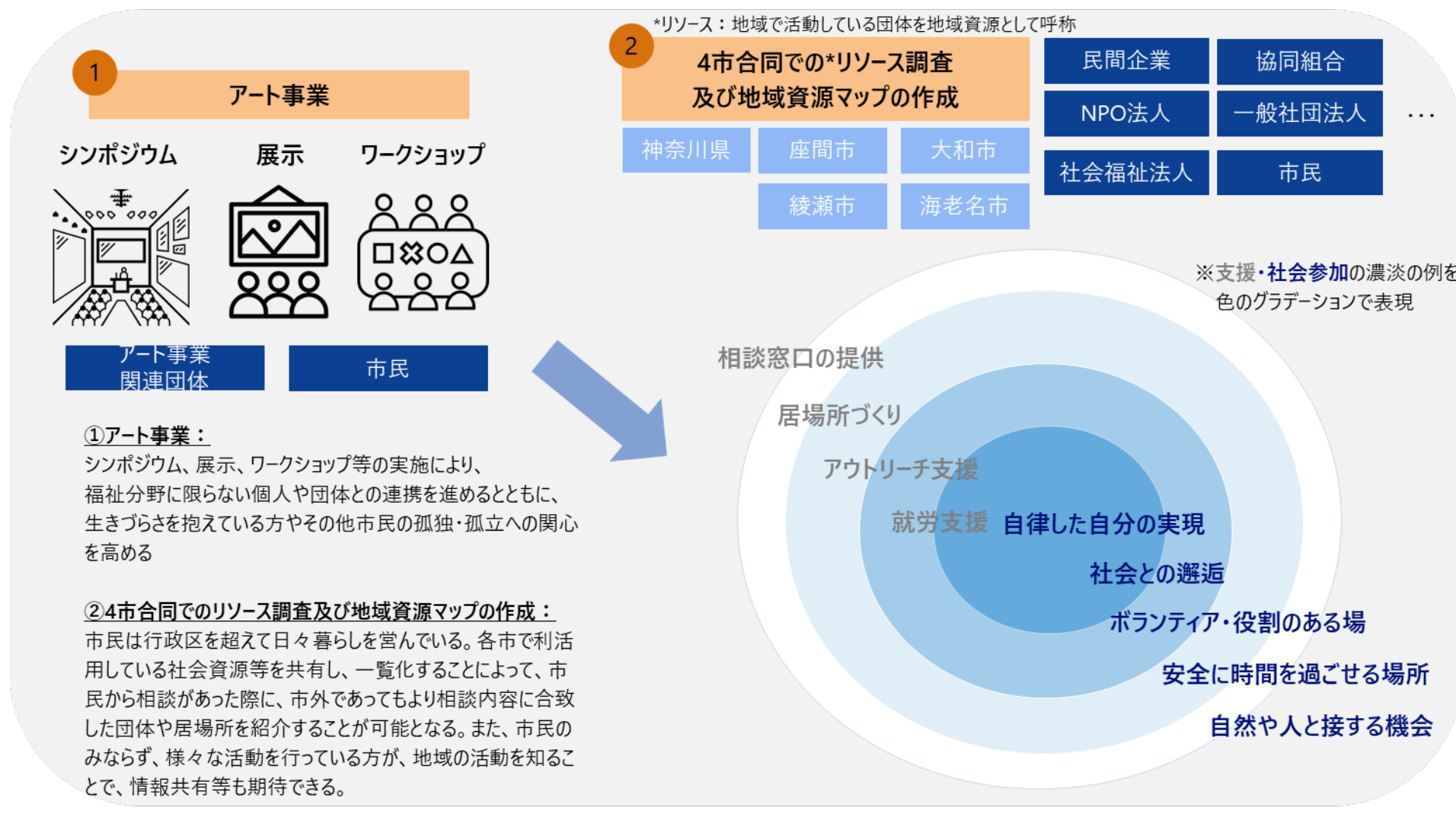
1. 取組の全体像					
1. 自治体の概要					
①	自治体名	座間市、綾瀬市、大和市、海老名市		②	担当部局名
					座間市 地域福祉課、 綾瀬市 福祉総務課 大和市 健康福祉総務課、 海老名市 生活支援課
③	人口	約 60 万(人)			
④	自治体内連携	庁内連携部局(メイン)		各市支援体制により異なる。 ※座間市の例 地域福祉課	
			庁内連携内 ※会議体、情報共有	・各市支援体制により異なる。 ※座間市の例 「包括的支援体制推進委員会」 座間市政策会議規程(に基づき、個別の政策課題等)に対応するために設置	
		庁内連携部局(メンバー)		各市支援体制により異なる。 ※座間市の例 庁内 29 課(「包括的支援体制推進委員会」)	
			庁内連携内容 ※会議体、情報共有	・各市支援体制により異なる。 ※座間市の例 「包括的支援体制推進委員会ワーキンググループ」 包括的支援体制推進委員会の下に設置。全ての市民が生きることにより希望を持ち、市民が抱える複合的で多様な課題を連携して解決するため、包括的な相談支援体制構築を図る上で具体的な検討を行う	
2. 形成をめざす地方版連携 PF の姿					
①	従前の取組 ※重層の取組、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	【座間市】生活困窮を柱に包括的な相談支援体制の構築を目指し、福祉領域でのステークホルダーを開拓、委託先や庁外支援団体などで構成される「支援調整会議」を月 1 回実施し、支援団体との連携、検討を継続して実施している 【綾瀬市】コロナ禍における市民団体等との協働によるフードパントリー事業、就労準備支援事業「はたらつく・あやせ」と協働の拠点型のひきこもりサポート事業、相談窓口を訪れることが困難な方を対象としたアウトリーチ支援事業 【大和市】こもりびと支援窓口の設置による、当事者や家族の相談支援、社会福祉協議会と連携した社会参加機会の創出 【海老名市】アウトリーチ支援専門員のアウトソーシングと委託先による連携機関の開拓、包括連携協定を結ぶ企業とのひきこもり等支援に係る事業連携についての打診			
②	実現したい状態 ※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境	今年度のゴール		- 広域的に連携できる社会資源等の発掘及びリスト作成 - 孤独・孤立支援に対する市民への意識付け - 担当者レベルの連携会議結成	
		最終的なゴール		市域にとらわれない事業者との連携強化、地域全体での相談・支援体制の構築及び活用(地域資源マップの作成含む)	

3. 地方版連携 PF における連携体制			
①	地方版連携 PF (種類があれば)	立ち上げ年度	未
		参画メンバー	4 市がこれまでの取組の中でつながっている団体 + α
		選出・打診時の工夫	※今回の PF 形成で候補団体に出会う可能性
②	地域協議会 ※特に専門性の高い支援を行う団体等で構成	立ち上げ年度	未
		参画メンバー	各市支援体制により異なる。
		選出・打診時の工夫	※今回の PF 形成で候補団体に出会う可能性

4. PF 連携による価値や工夫_考え方	
・ 昨年度、座間市の試行的事業を2つ実施した。「アートによる社会参加の創出」では、これまで福祉や孤独・孤立に関心のなかった住民に対して、孤独・孤立問題やその対策に興味をもってもらえた等の点でアートの力を活用することに効果を感じた。 ・ 「啓発のための学習会」では、地域で活動する団体は行政単位(市域)で活動しているわけではないことが知見として得られた。 ・ 日々の暮らしを起点に考えれば、生活者(民側)は市域の枠を常に意識して暮らしているわけではないので、孤独・孤立対策の視点からは生活圏を意識した取組も必要であると考えるが、行政(官側)は自団体以外の民間団体について情報すら持っていないことが多い。本事業により 4 市の連携強化と広域の官民連携 PF 形成を図ることで、より生活者の暮らしの有り様に合わせた支援が可能となる。 ・ 広く孤独・孤立問題を周知することで、民間団体、地域住民等も社会参加のきっかけや伴走者になりうることを啓発し、「地域全体での相談支援体制」の構築を目指す。	

2. 連携 PF イメージ

5. 連携PFのイメージ図



3. 試行的事業一覧					
6. 本年度に取り組む試行的事業の概要					
試行的事業のポイント・工夫		・ アートを軸とした4市協働での普及啓発活動・当事者を対象とした WS の開催 ・ 4市で活用できる地域資源マップの作成及び共有			
	事業名称	事業内容	目的/期待効果・KPI	実施時期	発注先
①	アート事業	・ 【座間市】市役所という市民生活を意識する場所で、孤独・孤立の問題を個人として考える機会をつくるための美術展 ・ 【綾瀬市】当事者を参加対象として、アートの力で自分の存在を肯定できる時間をつくる WS ・ 【大和市】行政・福祉・アートの各領域における孤独・孤立への知見を共有し、市民参加を促すシンポジウムを開催した。 ・ 【海老名市】孤独・孤立という社会課題を一般大衆に広く啓蒙することを目的とした街中展示	・ 孤独・孤立を感じている方が自分の生きづらさを肯定的に捉えられるようになる。 ・ 孤独・孤立を感じている方に対して寛容な環境をつくる。 ・ 就労による自己実現だけでなく、生きづらさを抱える人の中にある個性や魅力が発見・評価される地域づくり。	令和6年11月～ 令和7年3月	株式会社 Little Barrel (770万円)
			成果検証結果		
②	リソース調査・地域資源マップの作成	・ 【調査対象及び調査対象者数】 ・ 4 市内で活動する NPO 法人、社会福祉法人、こども食堂、地域包括支援センター等 157 件(メール・郵送・手渡し・FAX 等)に配布、63 件回収 ・ 【調査事項】 ・ 活動内容、人とのつながりや孤独・孤立に関連する取組の有無、PF への参画意向、団体紹介等 ・ 【調査方法】 ・ まず 4 市へ聞き取り(保有するリストや社会資源の確認)を行い、孤独・孤立対策(就労や居場所等)となりえる民間団体のリスト化を実施 ・ アンケートは、メール・郵送・手渡し・FAX 等でリスト内の団体へ配布	・ 4 市内の孤独・孤立 PF に関連する取組を実施する団体の把握、官民連携 PF に参画意向のある団体等の発掘 ・ 調査先からの更なるつながり先の紹介により把握していない社会資源の発掘	令和6年12月～ 令和7年2月	一般社団法人 市民連帯経済 つながるかながわ (29.9万円)
			成果検証結果		
7. 次年度以降に向けた事業等の案 ※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を列举					

- ・ 4 市連携による「地域でつながる官民の支援体制」の構築・持続的な活動基盤の形成
- ・ 就労による自己実現だけでなく、生きづらさの中にある魅力を発見・評価できる体制の整備
- ・ 地域住民が市域にとらわれず支援につながれる環境の整備

8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- ・ 表現者と支援される/する人が立場を超え、ユニークな時間と場を共創した本プロジェクト。高齢化や単身世帯増加が進むいま、どんな人も孤独や孤立の問題と無縁ではない。それを先駆ける、先進性と示唆に満ちた企画だった。(地域創造レター 3 月 25 日号より抜粋)
- ・ ・孤独孤立に対して、寄り添うこと、待つこと、などの重要性を体感できる企画だった。不確かさを含む時間的、心理的な余裕が必要だと感じられた。(関係者コメント)

4. 連携 PF の行程および実務上の留意点

【PF 立ち上げまでの行程】

実務上の留意点				
連携 PF の行程	過年度	令和5年度:PF の基本的な考え方の検討	今年度	令和6年度:広域連携 PF の立ち上げの準備
(ア)初期段階				
主担当部署の設定	R5年度	■従前からの自治体独自の先進的な取組・連携枠組みをフル活用した、連携体制の構築	R6年度 8月～	■各市のひきこもり相談支援に携わる部署が担当
担当者の初動	—	—	—	■早い段階から4市での合同会議を開催し、認識合わせを実施
(イ)準備段階				
取り組みテーマの設定	R5年度	■あえて特定の対象に焦点化せず、支援の網から漏れてしまう人を対象に	R6年度 10月～	■アート事業のコンテンツを各市の意見を元に決定
地域の現状把握	R5年度	■日頃の相談業務の中において様々な地域・住民ニーズを把握し、既存の枠組みで対応できない事柄を把握	R6年度 11月～	■市域を超えた支援を目指し、地域資源マップの作成を目的にリソース調査を実施
関係団体のリストアップ(庁外)	R5年度	■支援団体との意見交換を通じて、行政の発想にとらわれない PF 参画団体を検討	R6年度 11月～	■過年度からのつながりがある団体やリソース調査の回答団体から声掛け予定
関係団体のリストアップ(庁内)	R5年度	■広く庁内で連携している既存の枠組みを活用		■担当課以外への普及・啓発、巻き込みは今後の課題
初期メンバーへの声掛け	—	—	—	—
連携 PF の企画・設計	R5年度	■行政と支援団体との対等な関係での「水平的連携」を目指す	R6年度 2月～	■県の事業への参加をきっかけに、県との連携を開始
(ウ)設立段階				
域内住民・団体への情報発信	R5年度	■アートを起点とした情報発信の実施	R6年度 12月～	■「アート×福祉」の普及啓発を様々な形(WS、シンポジウム、展示)で実現
連携 PF の運営	—	■団体間での連携強化を目的とした勉強会の実施	今後	■リソース調査において PF 構築に前向きな団体へ声掛けしながら、県と連携
(エ)自走段階				
地域協議会の設置	—	—	今後	■広域連携での地域協議会の立ち上げに関しては事前準備が必要
PF の拡大・活性化	—	—	今後	■当事者の生活圏を考慮した連携ができる PF の構築を目指す

【PF 立ち上げまでの行程】

(ア) 初期段階		
①	主担当部署の設定	■各市のひきこもり相談支援に携わる部署が担当 - 座間市では昨年度より地域福祉課が継続的に担当。 - 他 3 市の担当者も、主にひきこもり相談支援に携わる部署で元々連携があり、昨年度のアート事業の展示会にも各市に足を運んでもらったため、声掛けはスムーズであった。
②	担当者の初動	■早い段階から 4 市での合同会議を開催し、認識合わせを実施 他市への声掛けはスムーズだったものの、4 市での意思決定が難しかった。何度か会議を開催して、各市の課題や本事業にて成し遂げたいことについて話し合いを行った。

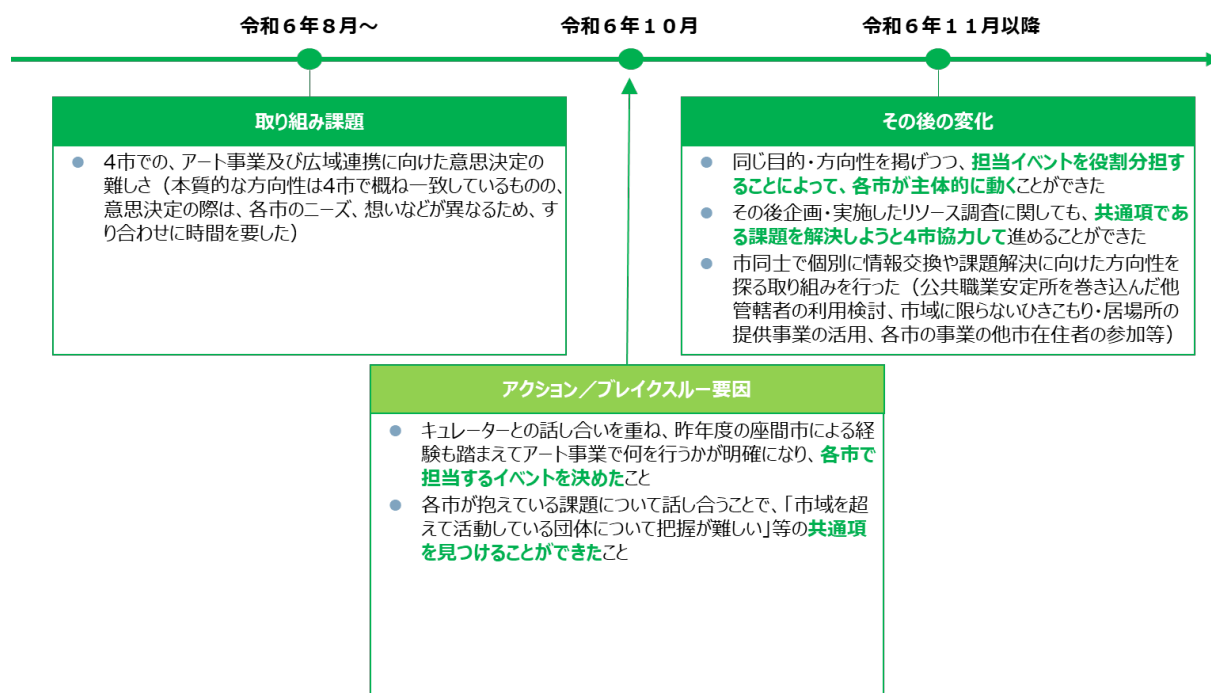
(イ) 準備段階		
③	地域の現状把握	■市域を超えた支援を目指し、地域資源マップの作成を目的にリソース調査を実施 - リソース調査を企画・実施。調査設計にあたり、過年度他自治体が行った調査票を参考に作成。 - 配布団体の連絡先は各市から募ることで、把握する団体の幅を広げることができた。また、資源マップの作成にもつながった。
④-1	取組テーマ決定	■アート事業のコンテンツを各市の意見を元に決定 福祉×アートを専門とするキュレーターに相談しながら、WS は支援者、当事者どちらにも有益であること、シンポジウムは昨年度行ったトークイベントの拡大版として、展示は WS の結果を用いて孤独・孤立を社会課題として普及・啓発することをそれぞれ目的にして実施。
④-2	連携 PF の企画・設計	■県の事業への参加をきっかけに、県との連携を開始 4 市連携を基盤に県の事業(つながりサポーター養成講座)に参加。これをきっかけとして県との連携ができ、かながわつながりネットワーク(神奈川県版孤独・孤立対策官民連携 PF)にも座間市として参加しているため、4 市連携のバックアップ協力を県にも依頼したい所存。
⑤	関係団体のリストアップ 初期メンバーへの声掛け	■担当課以外への普及・啓発、巻き込みは今後の課題 企画課には、4 市連携について報告を求められているような状況ではあるが、庁内連携は今後の課題である。
		■過年度からのつながりがある団体やリソース調査の回答団体から声掛け予定 - 昨年度本事業の勉強会に参加された団体が今年度のリソース調査の回答者にもなっており、2 年継続したことによってネットワークが強化された。 - リソース調査の結果を受けて、PF 構築に前向きな団体と組むことを想定している。

(ウ) 設立段階		
⑥	域内住民・団体への情報発信	■「アート×福祉」の普及啓発を様々な形(WS、シンポジウム、展示)で実現 様々な手法(WS、シンポジウム、展示)でアート事業を展開したため、市民の目に触れる機会が増えた。また、美術手帖等へも掲載していただいた。支援者にとっては、相談者との関係性など、日頃の相談業務を見直すきっかけにもなった。
⑦	連携 PF の運営	■リソース調査において PF 構築に前向きな団体へ声掛けしながら、県と連携 かながわつながりネットワークのメンバー(神奈川県版孤独・孤立対策官民連携 PF)の会議に座間市も出席しているが、当該メンバーは横浜市・川崎市の団体が多く、ここに本事業で行ったリソース調査にて、PF 構築に前向きな団体を推薦することを考えられる。県からも情報を共有いただきながら進めていきたい。

(エ) 自走段階		
⑧	地域協議会の設置	■広域連携での地域協議会の立ち上げに関しては事前準備が必要

		生活圏での建付けと、地域協議会の関係(法は市域で完結するという認識)が難しく、広域連携での地域協議会の立ち上げに関しては、別途研究が必要。
⑨	PF の拡大・活性化	■当事者の生活圏を考慮した連携ができる PF の構築を目指す 単発で終わらせるつもりはなく、現場担当者の意見も聞いて今後の取組について設計したい。その際、市で区切るのではなく、生活圏での連携が重要だと考えている。神奈川県は政令市が3市+他市町村という構成であるため、県としてひとまとめに考えづらい。一般市が動くことで県にもよい影響を及ぼすことができるとよいと考える。

ブレイクスルー要因		
	アクション/ ブレイクスルー要因	■現在抱えている課題や、これから目指そうとしている方向性の共通項の発見・共有 - 昨年度座間市単体で行ったアート事業への視察をきっかけに、他3市にも趣旨をご理解いただいた上で参画いただいたものの、4市でのアート事業の詳細決めや広域連携に向けた方向性のすり合わせに時間を要した。 - その中で、各市で担当するイベントを決めたことや、各市が抱えている課題について話し合う過程において「市域を超えて活動している団体について把握が難しい」等の共通項を見つけることができたことによって、同じ目的・方向性を掲げつつ、担当イベントを役割分担することによって、各市が主体的に動くことができた。 - また、試行的事業以外でも、市同士で個別に情報交換や課題解決に向けた方向性を探る取り組みを行うことができた。



コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携 PF の重要性～

社会福祉法人中心会 ユニバーサル就労支援

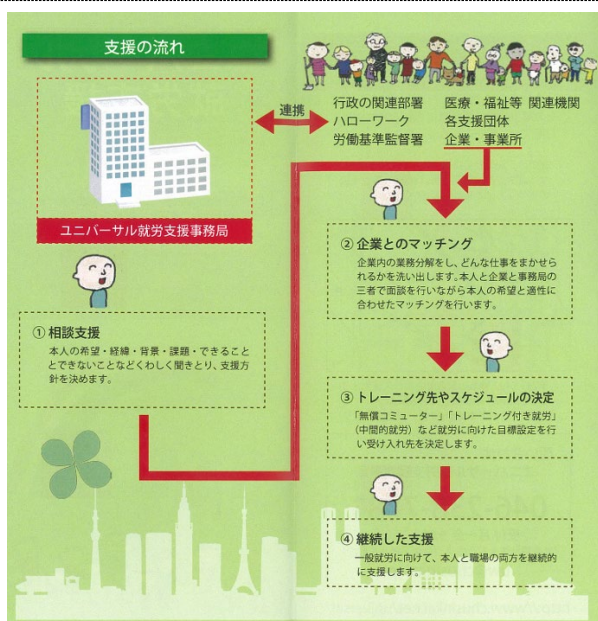
- ・ ユニバーサル就労支援は、「働きたいけれど、働けずにいる人」をサポートする仕組みの構築を目的に、高齢者施設や児童養護施設を運営する社会福祉法人中心会の社会貢献事業として、平成 26 年 4 月より開始。
- ・ 就労ブランクのある方、障がいのグレーゾーンの方、心身に不調のある方など、制度の狭間にいて必要な支援を受けることができていない方に対して、個人の事情や特性に合わせた働き方ができるように、就労希望者のみならず、企業(職場)側もサポートする。具体的には、中心会が運営する高齢者施設や児童養護施設、協力企業等で実習を行い、随時フィードバックを行いながら、就労への準備を行う。
- ・ ユニバーサル就労支援事務局の連携先として、座間市、海老名市、綾瀬市、大和市、厚木市等の市役所や社会福祉協議会、ハローワーク等があり、就労以外の支援が必要な場合にも迅速に連携できるようになっている。

💡 個人情報保護等の観点から、お互い詮索し合わない時代において、8050 問題、家庭内孤立等の問題をいかに発見・リーチするかが課題

- ・ 仕事がないということだけでなく、様々な要因が組み合わさることで、人は孤独・孤立状態に陥る。一見孤独に見えないが、家族と折り合いがつかないで家庭内で孤立している方も存在する。実際は社会に問題があることでも個人の問題と見なされる昨今の風潮の中で、「相談する」という行為は、プライベートな事項を開示することになる。そのため、相談を促すのは容易ではなく、支援する側から発見し、声をかけることが求められる。
- ・ 相談者からの相談経路についても、半数以上が「連携先機関から」であり、「本人から」「家族から」の選択肢より高い割合を占めている。連携先機関に自分から相談に行く人は問題ないが、そうではないひきこもりや孤独・孤立の方にいかにリーチするかが課題である。

💡 支援者側も孤立しないよう、ハブ的な機能を有する PF の構築に期待

- ・ 支援者自身で受け止めきれない内容の相談を受けたとき、支援者側が孤独・孤立に陥る可能性もある。PF には、支援者の相談窓口として、市内のリソースの情報共有や手詰まりな状態に対するアドバイスの提供をしてもらえる機能も持ってほしい。
- ・ 個人で活動されている方もいるため、支援団体含め、地域にどのようなリソースがあるかは知っておくことが重要である。PF 構築にあたり、支援団体や個人で活動する市民について知ることができるツールもしくは機会があるとよい。



周囲からそう見えなくても、実際には孤立し孤独を感じている方が多く、また、支援を受けることに抵抗のある方もいらっしゃるため、「相談してほしい」と言うより「ちょっと来て力を貸してほしい」という声かけが有効だと思います。就労に限らず、実際にその人が力を発揮できる場づくりが必要だと考えます。

社会福祉法人 中心会
ユニバーサル就労支援事務局
伊藤 早苗様

5.自治体等との打合せ記録一覧

No.	日時	打合せ相手団体	出席者 打合せ相手	NRI
1	8/26(月) 10:00-11:30	座間市 地域福祉課	林様、谷田様、吉野様	生駒、谷本、坂田
		綾瀬市 福祉総務課	野口様、木練様	
		大和市 健康福祉総務課	鈴木様、佐伯様	
		海老名市 生活支援課	向原様、永田様	
2	9/13(金) 15:00-16:00	座間市 地域福祉課	林様、谷田様、吉野様	生駒、坂田
		綾瀬市 福祉総務課	野口様、木練様	
		大和市 健康福祉総務課	鈴木様、佐伯様	
		海老名市 生活支援課	向原様、永田様	
3	9/30(月) 15:00-16:00	座間市 地域福祉課	林様、谷田様、吉野様	生駒、坂田
		綾瀬市 福祉総務課	野口様、木練様	
		大和市 健康福祉総務課	鈴木様、佐伯様	
		海老名市 生活支援課	向原様、永田様	
4	10/16(水) 16:00-17:00	座間市 地域福祉課	林様、谷田様、吉野様	坂田
		綾瀬市 福祉総務課	野口様、木練様	
		大和市 健康福祉総務課	鈴木様、佐伯様	
		海老名市 生活支援課	向原様、永田様	
5	12/25(水) 10:00-11:00	座間市 地域福祉課	林様、谷田様、吉野様	生駒、坂田
		綾瀬市 福祉総務課	野口様、木練様	
		大和市 健康福祉総務課	鈴木様、佐伯様	
		海老名市 生活支援課	向原様、永田様	
6	2/20(木) 17:30-18:30	座間市 地域福祉課	林様、谷田様、吉野様	生駒、坂田
		座間市 地域福祉課	林様、谷田様、吉野様	
7	3/4(火) 10:00-11:00	綾瀬市 福祉総務課	野口様、木練様	坂田
		大和市 健康福祉総務課	鈴木様、佐伯様	
		海老名市 生活支援課	向原様、永田様	

※その他、キュレーター、各アーティストとの打ち合わせ多数

6. 自治体による従前からの取組

<座間市>

■ 生活困窮者自立支援制度「断らない相談支援」による支援体制づくり

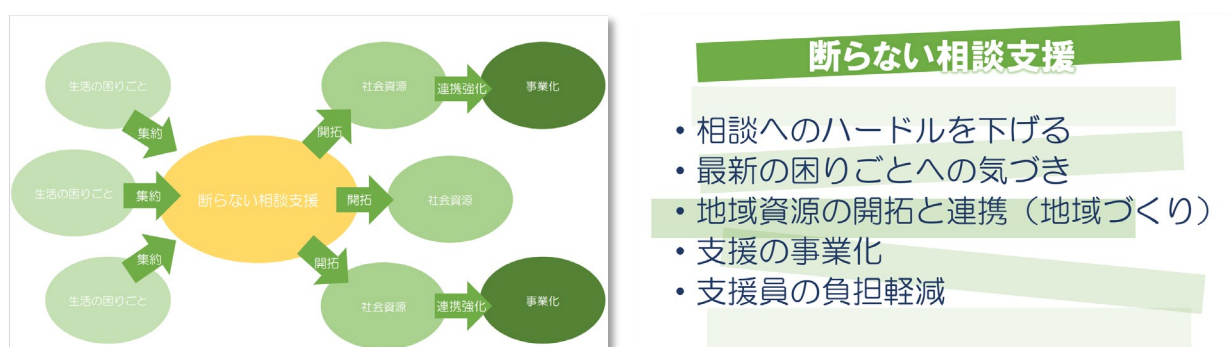
(取組概要)

座間市では、さまざまな問題を抱えて生活に困っている方の課題解決と自立を支援。

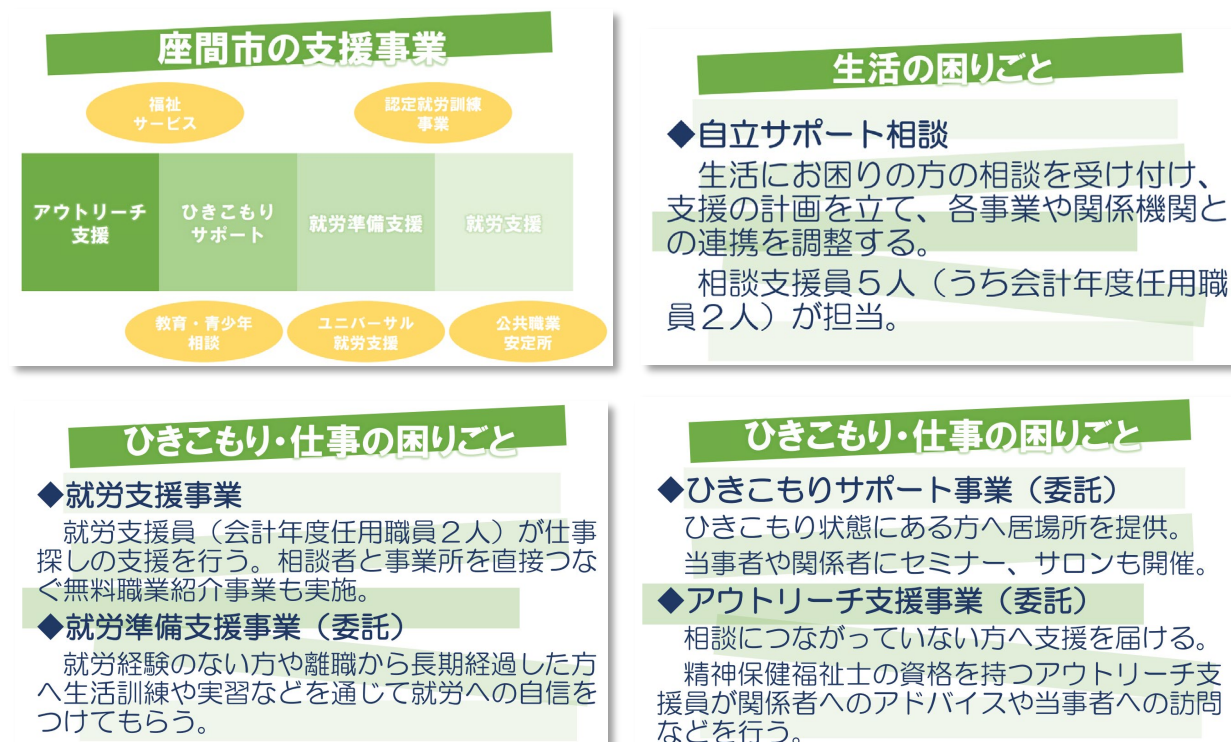
相談支援員は、課題解決のために何が必要か一緒に考え、具体的なプランを作成し、自立に向けた支援を実施。相談は、本人だけでなく、家族や関係者からも受け付けている。

具体的な支援の種類として、自立相談支援、就労支援、就労準備支援、居住支援、住居確保給付金等の支援を実施。

図表 断らない相談支援



図表 座間市の支援事業



■ 包括的支援体制整備WG等を中心とした庁内連携

(取組概要)

「生活の困りごと」の支援を通じた庁内連携体制の構築を検討。庁内ルールや連絡体制など、包括的な支援体制の仕組みを整備。平成29年度に行政改革推進委員会の専門部会として発足し、令和2年度にワーキンググループへ移行した。

「生活困窮者支援」を福祉だけの問題ではなく、市役所へ来る方は困りごとを抱えている可能性があると考え、市役所全体で、市民の困りごとに「気づき」、適切な支援へ「つなぐ」ための仕組みを検討している。

図表 つなぐシート・相談チャート



図表 職員研修



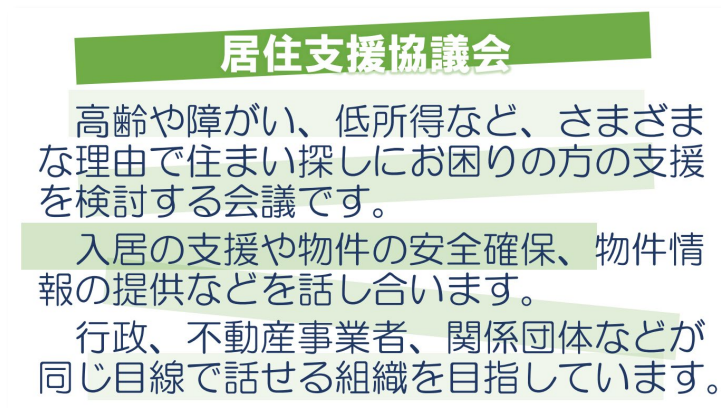
■ 居住支援協議会

(取組概要)

高齢や障がい、低所得など、さまざまな理由で住まい探しにお困りの方の支援を検討する会議。

居住支援協議会は、経済的にお困りの方、高齢の方、障がいのある方、子育て中の方、外国籍の方など、住まい探しにお困りの方および住宅を貸し出している方への情報提供や円滑な入居に必要なことを話し合うことで、豊かで住みやすい地域づくりに貢献することを目的としている。

図表 居住支援協議会



(委託先)

有限会社トータル・ケアサービス(アウトリーチ等の充実による自立相談支援機能強化事業)

生活クラブ生活協同組合(就労準備支援事業・ひきこもりサポート事業)

特定非営利活動法人 ワーカーズ・コレクティブ協会(就労準備支援事業・ひきこもりサポート事業)

さがみ生活クラブ生活協同組合(就労準備支援事業、ひきこもりサポート事業)

特定非営利活動法人ワンエイド(一時生活支援事業、地域居住支援事業)

社会福祉法人 座間市社会福祉協議会(家計改善支援事業、子どもの学習・生活支援事業)

<綾瀬市>

■ ひきこもりサポート事業 みんなの居場所「ぽーこ・あ・ぽーこ」

(取組概要)

綾瀬市では、ひきこもり状態にある方などの状況に応じた社会参加に向けた支援を行っており、その一環としてみんなの居場所「ぽーこ・あ・ぽーこ」を提供している。「今は、引きこもり状態だけど、現状を変えたい」、「誰に相談していいかわからない」、「自宅以外にホッとできるところが欲しい」などの悩みを抱える市民は、安心して過ごせる居場所や相談場所として、土日祝日を除く 9 時半～16 時半で「ぽーこ・あ・ぽーこ」を利用できる。運営は、共同企業体 生活クラブ、NPO 法人ワーカーズ・コレクティブ協会、さがみ生活クラブの 3 者が行っている。

図表 ひきこもりサポート事業 みんなの居場所「ぽーこ・あ・ぽーこ」チラシ

綾瀬市ひきこもりサポート事業
みんなの居場所

ぽーこ・あ・ぽーこ

居場所は安心して過ごせるいつでも気軽に利用できる場所です

誰に相談したらいいかわからない
外に出るきっかけがほしい
自宅以外でホッとできるところがほしい
人とのかわり方に自信がない
まずはひとりでんびりしたい
話をきいてほしい
そんな時は
『みんなの居場所ぽーこ・あ・ぽーこ』へ
～私たちはあなたを応援します～

みんなの居場所ぽーこ・あ・ぽーこ
綾瀬市寺尾中1-8-11カタノビル2F
0467-73-7482
開所日 月曜日～金曜日
9:30～16:30

ひきこもり状態にある方がそれぞれのかたちで社会参加に向けた支援を目的としています

『ぽーこ・あ・ぽーこ』は音楽記号で『ゆっくり・だんだんに』という意味があるそうです 私たちもそんな気持ちを大切にしたいと思っています

フリーサロン
何もしなくても、自宅以外で
ほっとできる時間に
スタッフと雑談したりお茶を
してみたり
折り紙、ゲーム、漢字練習や
パソコンに触れてみたり
過ごし方は自由に

企画サロン
季節行事や物づくり

あせらず
ゆっくりと…

相談
雑談から相談に…何を
相談したいのかわ
からなくても大丈夫
専門の方につなぐこ
ともできます

居場所セミナー
利用者・家族向け
専門家や経験者のお話

『みんなの居場所 ぽーこ・あ・ぽーこ』はフリースペース中心ですが、
ゆるやかに社会参加につながっていくためのメニューもあります

◆運営団体◆

★ひきこもりサポート事業を綾瀬市から委託を受けて
共同企業体
生活クラブ、NPOワーカーズ・コレクティブ協会、さがみ生活クラブ
の3者で運営しています

★綾瀬市から委託を受けている
就労支援事業「はたらっく・あやせ」
と連携しています

■ 就労準備支援事業「はたらっく・あやせ」

(取組概要)

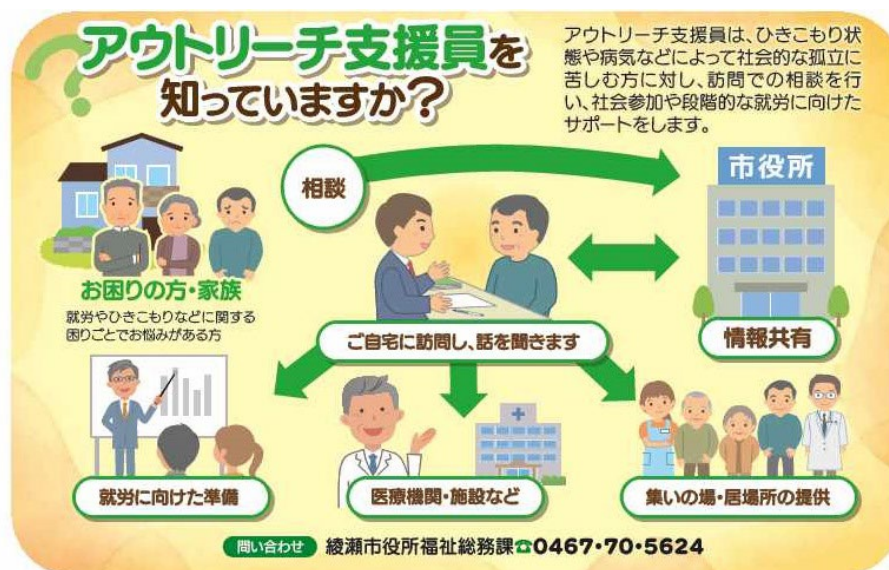
綾瀬市では、働いた経験のない方、仕事を辞めて時間が経ってしまった方などへ、就職活動を始めるための支援として、就労への自信を高めるためのさまざまな体験型プログラムを提供している。まずは、「はたらっく・あやせ」に定期的に通い、生活習慣の見直しを目指す。生活力を身につけるための講座や演習への参加を通して、決まった時間に通うことに慣れながら、就労の前段階である実習に向けた準備を行う。実習先は綾瀬市を中心とした「はたらっく・あやせ」の活動を理解し、応援してくださる地域の事業所であり、実習後は就職活動に向けた模擬面接や履歴書の書き方、会社でのマナーなどを学び、市の就労支援員や「はたらっく・あやせ」のサポートを受けながら就職活動を行う。

■ 訪問型自立相談支援(アウトリーチ支援)

(取組概要)

ひきこもり状態や病気などによって社会的な孤立に苦しむ方に対し、訪問での相談を行い、社会参加や段階的な就労に向けたサポートを実施する。具体的には、福祉総務課へいただいた相談内容をアウトリーチ支援員と共有して、支援者の自宅へ訪問し、話を伺う。その後、信頼関係を構築しながら、関係機関への相談同行、就労支援といった、自立までの一貫した支援を提供する。

図表 支援プロセス



<大和市>

■ こもりびと支援事業

(取組概要)

様々な要因の結果として就学、就労、家庭外での交遊等の社会的参加を回避し、家庭等にとどまり続けている状態の方(こもりびと)とその家族を対象として、こもりびとコーディネーターが相談者に寄り添った支援を提供する。例えば、月に1回「こもりびとの居場所」として、こもりびと当事者が安心して参加できる場を保健福祉センターで提供する。また、当事者本人、ひいてはご家族の方が社会的に孤立しないよう、こもりびと当事者の社会参加への足掛かりとして、フリートークの場として「こもりびとの集い」を年に4回開催している。

さらに、大学教授、ジャーナリスト、体験者を講師として、こもりびとへの誤解や偏見のない地域社会を築いていくことを目的とした講演会を年に1回実施するほか、こもりびとやそのご家族が一步を踏み出す一助となるよう、「こもりびと支援ハンドブック」を作成し、漫画「こもりびと」をはじめとして、ご家族等に知ってほしいことや、こもりびとコーディネーターからの一言、こもりびと支援の段階的なイメージなどを掲載した手引きを作成している。

図表 こもりびと支援ハンドブック



<海老名市>

■ ひきこもり相談・支援事業

海老名市では、何らかの要因から社会的に孤立し、孤独を感じている状態にある人や、様々な生きづらさを抱えている状態にある方やご家族からの相談を受け、社会との邂逅に向けた支援や情報提供を行っている。

また、専任のアウトリーチ支援員を委託により設置し、アウトリーチを活用した専門的な立場からの見立てやアプローチにより、相談、家庭訪問や外出同行等、より当事者や家族目線に立った細やかでフレキシブルな相談・支援体制を構築している。

■ 居場所事業

ひきこもり相談・支援によって、家族や相談員とのコミュニケーションが取れた方が、一般的な社会に出る前の中間的・過渡的場所の提供を目的に、海老名駅至近の海老名市総合福祉会館を活用し、当事者向け居場所の提供を行っている。居場所では、各種アクティビティや自由に使えるスペースを用意。相談員の配置により相談対応も可能とし、当事者の方が安心して過ごせるよう配慮している。

また、参加者については居住の如何を問わず参加を可能としており、市域を問わないことで参加者の交流など幅広いつながりが生まれるよう工夫している。

ひきこもりなどの方への アウトリーチ(訪問)支援をします

誰にも言えない悩みを抱えていませんか。
アウトリーチ支援員があなたの状況に合わせて相談に伺います。自分らしく生きられるお手伝いをさせていただきます。

アウトリーチ支援とは
地域社会と接点がなく、外出が難しい、心身に不安を感じているなど、生きづらさを抱えていても相談に行くことができない方々のもとへ、ご自宅や話しやすい場所に訪問し、相談を受け付け、様々な社会資源に繋げます。支援が届いていない本人だけではなく、ご家族の相談も受け付けます。

おこまりごとの例



アウトリーチ支援事業委託先

相談支援事業所びーな'S

住 所 海老名市中新田383-1 わかば会館2階

電 話 046-292-1122

メー ル so-soudanbinas@soushu.jp

相談時間 月～土 9時～17時 ※年末年始を除く

参加者の声
気楽に過ごせた。
空気がゆったりしていた。
久しぶりに心から笑った。

参加費
無料

**ようこそ
えびなの居場所へ**

ひきこもり状態から何かを変えたいと思っている...そんなあなたが自由に過ごすことが出来る場所があります。ぜひ一緒に過ごしませんか。
あなたが来ることをお待ちしております。

☆日 程☆	令和6年11月14日(木曜日) 令和7年2月13日(木曜日)
☆時 間☆	13時～16時
☆場 所☆	海老名市総合福祉会館 2階 第5会議室/茶室
☆内 容☆	自由に過ごせるフリースペース・折り紙・ コラージュ・トランプ・書籍など。 お茶を飲みながらゆっくり過ごせます。 相談も可能です。
☆対象者☆	市内在住者問わず、参加が可能です。 ひきこもり状態などで居場所を必要として いる方ならどなたでも参加できます。 【予約は不要です】

【お問合せ先】海老名市生活支援課 電話 046-235-9015(直通)

試行的事業

① アート事業(ワークショップ)

概要	各自治体の孤独・孤立に関する支援につながっている方を対象に、3組のアーティストによるWS(WS①キュンチョメ「みんなで貝を食べる 食べた貝で、目を閉じる」、WS②飯川雄大「0人もしくは、一人以上の観客に向けて」、WS③金川晋吾「写真と日記のワークショップ」)を行った。
ねらい	- WS①自然の物(貝)や自然現象(貝が開く)、自然に対する想像(目を閉じる)を通じて、『自然とのコミュニケーション』を体感してもらう。 - WS②街中にささやかな「影響」を加えることから、環境を含む他者と関係することの楽しさ(「関わることは悪いことではない」ということ)を体感してもらう。
工夫点	各WSの目的を鑑み参加者像を明確にしたうえで、各自治体で支援員と相談しながら、参加者に声掛けを行った。
結果	WS①:参加者 23 名(うち相談者 17 名) WS②:1 日目 21 名(うち相談者 9 名)、2 日目 20 名(うち相談者 8 名) ・ WS③:第 1 回 16 名(うち相談者 6 名)、第 2～3 回 11 名(うち相談者 5 名)

(WS①キュンチョメ「みんなで貝を食べる 食べた貝で、目を閉じる」)

- 日時:令和6年 12 月 26 日 14:00-16:00
- 会場:綾瀬市保健福祉プラザ調理室
- 概要:参加者とともに貝を調理し、食べ、貝殻に水平線を描き、貝を目の上に乗せ、目を閉じ深呼吸を行った。「貝が開く」様子から、「心を開く」楽しさや心地よさを無意識で体感してもらうことができた。水平線が描かれた貝殻は、座間市役所の展覧会場にも展示された。
- 支援者からの感想:「参加者の一歩引いた緊張感から、貝の焼ける匂いに惹かれた時の、獲物をしとめた時の集中力のある視線など、普段は見えない光景が見えた。さらに、こうした活動の中で、協力思考で動ける人だけではなく、協力を避ける人の動きも垣間見えた。」

図表 当日の様子



(WS①飯川雄大「0 人もしくは、1 人以上の観客に向けて」)

- 日時:令和7年 2 月 18 日、19 日 13:00-16:00
- 会場:ビナ SUN ホール(神奈川県海老名市中央 1-4-1 ビナウォーク 3 番館)
- 概要:参加者は「バレそうでバレない、でも気がついたら目が離せなくなるようなイタズラ」をテーマに、参加者が設置場所や材料、作り方から自由に発想し作品を作り、ビナウォークと海老名中央公園に仕掛ける。仕掛けた作品を展示物としてマップを作成し、来場者に気づいてもらう。
- 支援者からの感想:「すぐに作業に取り掛かる方、熟考する方と様々で無事終了するのかと 1 日目は心配していたが、2 日目は参加者・支援者の粋を感じることなく一つの空間で作品を作っている一体感が生まれていた。普段は見えない気持ちや感覚が表現され本人たちの新たな一面が見えた。」

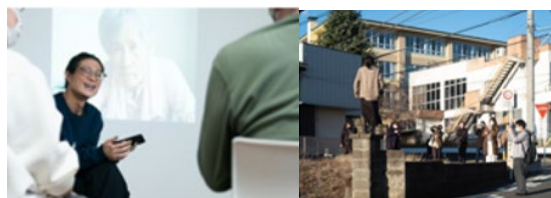
図表 当日の様子



(WS③金川晋吾「写真と日記のワークショップ」)

- 日時(全3回):
 - ✓ 令和6年12月17日 14:00-17:00
 - ✓ 令和7年1月8日 14:00-17:00
 - ✓ 令和7年1月27日 14:00-17:00
- 会場:綾瀬市保健福祉プラザ
- 概要:参加者に継続して日記を書いてもらう試みや、写真撮影を行った。写真家や支援者を被写体に、相談者が撮影した写真や、日記などが座間市役所の展示会場で展示された。
- 支援者からの感想:「参加者が立場関係なく日記を共有することで、WSの回数が進むにつれて写真を撮る距離感が変わる人や、変わらない人などそれぞれに変化があり、一人ひとりの人との距離の取り方などが作品に表れていた。」

図表 当日の様子



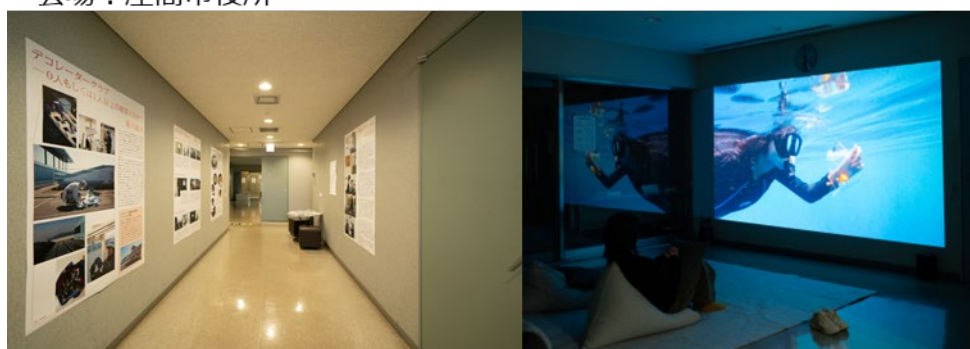
① アート事業(展示)	
概要	海老名市、座間市の2か所で展示を行った。海老名市では、海老名中央公園・ビナウォークにて、WS参加者の作品を展示した。座間市では、市役所にて、WSから生まれた参加者の表現やその記録を中心に展示を行い、展示期間中の週末にはギャラリーツアーやトークイベントを行った。
ねらい	海老名市では、孤独・孤立という社会課題を一般大衆に広く啓蒙することを目的として、街中展示(市公共施設と隣接する民間商業施設)を行った。座間市では、市役所という市民生活を意識する場所で、孤独・孤立の問題を個人として考える機会をつくるための美術展を開催した。
結果	来場者合計:3,198名(海老名会場:2,345名/1日平均293名、座間会場:853名/1日平均85.3名)
工夫点	トークイベントにて、出展作家とキュレーター、主催市の企画担当が、企画の背景やプロセス、支援とアートが交わる可能性について紹介することで、一見関わりのないように見える支援とアートの関係性について来場者にも理解を促した。
結果	来場者合計:3,198名(海老名会場:2,345名/1日平均293名、座間会場:853名/1日平均85.3名)

(展示の様子)

・海老名会場
会期：2025年2月21日（金）
～28日（金）9:00-17:00
会場：海老名中央公園
・ビナウォーク



・座間会場
会期：2025年2月21日（金）
～3月2日（日）9:00-17:00
会場：座間市役所



(アンケート結果(自由記述抜粋))

(海老名会場)

- 会場では地図パンフレットを持って、展示を探している方に何人もすれ違った。特にお互い言葉をかわしたり、交流があったわけではないが、同好の士という感じを持ち、孤独・孤立対策の文脈に「ぴったり」はまっていた。
- 目が離せなくなるようなイタズラで、楽しさと日常に紛れている小さな違和感におもしろさを感じた。

(座間会場)

- 展示から、生きているだけで他者に影響を与えている可能性が十分にあることや、人を頼ることについての謙虚さとポジティブさを感じた。
- 市役所という、ふだん事務的なことでしか訪れないような場所にしながら、時間も距離も超えたどこかに意識を飛ばせるはじめての体験だった。
- 「寄り添う」という言葉と現実のギャップの難しさ、立場の取り方など、戸惑うことばかりだけど時間や力をかけて変わっていくことはあるんだなと思った。アートの力で越境できたところが大いにあったと思う。みなさんの葛藤に触れて、励まされるわけでもなく、自分の孤独孤立や、つながることのむずかしさ、つながりの大切さを認識できた。
- 昨今溢れる地域おこしのための芸術祭とは異なり、座間市に存在した特徴的な福祉の存在から始まり、地続きの流れから職員の方を通して美術につながるものの価値が、とてつもなく貴重で、美術の世界にとって大事な要素だと感じている。

① アート事業(シンポジウム)	
概要	行政、福祉、アート各領域における孤独・孤立という課題への知見を共有し、市民参加につなげることを目的としたシンポジウムを開催した。
ねらい	行政、福祉、アート各領域における孤独・孤立という課題への知見を共有し、連携に向けて議論すること。
工夫点	- 第1部で孤独・孤立とアートの力をテーマに議論し、第2部で広域/多職種連携の必要性について議論した。 - 会場とのインタラクションを挟むことで、参加者の孤独・孤立という社会課題への普及・啓発を行った。
結果	参加者 126 名 「孤独・孤立支援にアートにできることがあると感じましたか」の設問に、9 割程度が「すごく感じた」「感じた」と回答。

(シンポジウム「孤独・孤立にアートができること」概要)

- 日時: 2月21日(金) 第一部:13:00-14:30、第二部:15:00-17:00
開場 12:30、入場自由(先着順)、UDトークによる文字支援あり
- 会場: 大和市保健福祉センター(大和市鶴間 1-31-7)
- プログラム:

◆第一部「孤独・孤立とアートの力」

●登壇者:

大西 連(内閣府孤独・孤立対策推進室参与、認定 NPO 法人自立生活サポートセンター・もやい理事長)、鈴木康広(現代美術作家、令和5年度同プロジェクト参加アーティスト)、西原 珉(秋田市文化創造館長、東京藝術大学美術学部准教授、心理療法士)

◆第二部「孤独・孤立支援における広域/多職種連携の必要性」

●登壇者:

奥田知志(NPO法人抱樸理事長)、田中みゆき(キュレーター、プロデューサー)、室井舞花(一般社団法人ひきこもりUX会議理事)

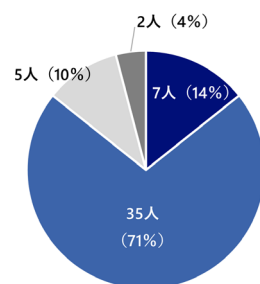
●ファシリテーター: 大西 連

(アンケート結果)

- 「孤独・孤立支援にアートにできることがあると感じましたか」の設問に、9 割程度が「すごく感じた」「感じた」と回答。
- 「孤独・孤立支援に多職種連携が必要であると感じましたか」の設問に 9 割以上が「強く感じた」「感じた」と回答。

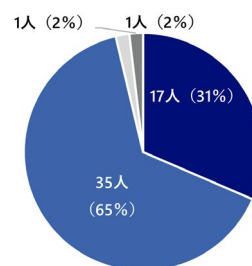
図表 シンポジウム参加者へのアンケート集計結果

第一部の講演会で、孤独・孤立支援にアートに
できることがあると感じましたか？ (N=49)



■ すごくできた ■ できた ■ できなかった ■ まったくできなかった

第二部の講演会で、孤立・孤独支援に
多職種連携が必要であると感じましたか？ (N=54)



■ 強く感じた ■ 感じた ■ わからない ■ 感じなかった

図表 当日の様子

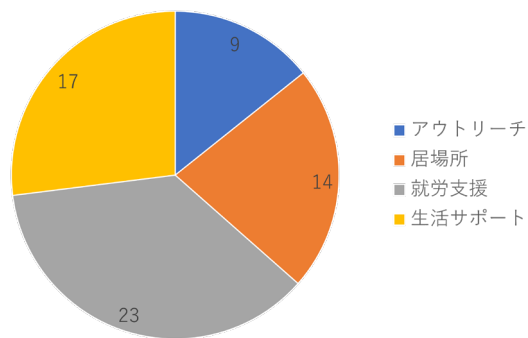


② リソース調査・地域資源マップの作成	
概要	大和、海老名、座間、綾瀬の4市における孤独・孤立を支援する団体の存在と活動状況を把握し、4市で共有できる地域資源マップを作成する。 4市内で活動するNPO法人、社会福祉法人、こども食堂、地域包括支援センター等157件(メール・郵送・手渡し・FAX等)に配布、63件回収。
ねらい	市民から相談があった際、市域を超えて適切な居場所や支援団体へのつながりを行うべく、広域内で活動する団体の活動内容やPFにおける連携可能性について明らかにすること。
工夫点	- 各市から回答対象者を募集すると共に、調査実施会社の自主調査によって回答対象者を選出し、幅広い活動内容の団体を集めることができた。 - 調査結果を支援に活かせるよう、Google マップのマイマップを用いて、地域資源マップを作成した。
結果	内容別に見ると、「家庭」に関する活動を行っている団体、形態別にみると、「就労支援」を行っている団体が多かった。 調査対象団体をプロットした地域資源マップを作成した。

- ・ 回答者の活動内容をカテゴリ別に集計し、サンバースト図を作成したところ、ひとり親、子育て、虐待、DV、ひきこもり、身寄りがいない人、ヤングケアラー等の「家庭」に関する活動を行っている団体が最も多いことがわかった。
- ・ 活動形態としては、就労支援が最も多く、次いで生活サポート、居場所づくりという結果であった。

[illegible]

図表 回答者の活動形態(N=63、単位:団体)



(地域資源マップの作成)

Google マップのマイマップを用いて、調査対象団体の位置関係と活動概要を可視化することで、今後の支援に活用しやすいアウトプットを心掛けた。

図表 地域資源マップ

